

学校経営方針 佐渡市立行谷小学校 2019. 4. 1

1 学校の教育目標

明るく 仲よく やりぬく子

2 目指す子どもの姿

生きる力をもち郷土を愛する子どもの育成

3 重点目標 【知育】 学び合い、自力解決する子

【徳育】 思いやり、協力する子

【体育】 励まし合い、運動に親しむ子

4 学校経営の方針

凡事徹底！

佐渡の未来を担う人材として、多様な人々と関わりながらふるさとへの愛着と誇りをもち、仲間とともに主体的に学び続ける子どもの姿を目指す。そのために、特別なことをするのではなく、学校の教育活動として「当たり前のこと」、そして、行谷小学校の伝統として、これまでずっと大切にしてきた「当たり前のこと」を徹底する。

公立小学校の教育活動として「当たり前のこと」を徹底し、保護者、地域住民とともに、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をすべての子どもたちに身に付けさせていく。

(1) 笑顔と活力あふれる学校づくり

どの子どもも「学校が楽しい」と思えるように、「学ぶ楽しさ」「仲間とかかわる楽しさ」「挑戦する楽しさ」の実現に向けた教育活動を推進する。

まず、学力実態を基にビジョン（目指す子どもの姿）を全教職員で共有し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた日々の授業改善に取り組む。特に、子ども同士の学び合いを取り入れ、互いの考えを深め合う授業づくりに力を入れる。仲間とともに学ぶ楽しさを味わい、分かる喜びを実感することを通して、子どもはさらに学ぶ意欲を高め、自らの成長を自覚しながら主体的に学び続けていくことができるようにする。テストの点数を上げることが学力向上策の目的ではない。また、「夢ナビシート」を活用し、夢や目標を明確にさせ、その実現に向けて努力する姿を支援していく。自分の未来像を描き、そのために何を努力するのか、「なりたい自分」を語るができるようにする。さらには、いじめを見逃さない生徒指導体制を強化し、一人一人に寄り添った支援と丁寧な対応に努め、どの子どもも笑顔で生き生きと学校生活を送ることができるようにする。

(2) 学校と家庭・地域が一体となって子どもたちの学びを支援する教育課程の実現

「日本一のトキの学校」を合い言葉として、トキ学習を全校体制で推進し、家庭・地域と一体となって、子どもたちの学びを支援する。

トキを守ることは、子どもたちのふるさと佐渡を守ることにつながる。トキの未来は、子どもたちの未来である。トキ学習を通して、自分たちの住む地域の自然環境への理解を深め、環境の保全やよりよい環境の創造に貢献できる実践的な態度と資質能力の育成を図る。トキ学習で学んだことを生かして、佐渡の未来、新穂・行谷の未来に貢献できる人材として成長することを期待する。

また、サポート委員会（学校評価委員会）、PTA活動、地域コーディネーター（ボランティア）と連携した取組に力を入れ、学校が拠点となって地域と連携・協働した活動を充実することで、地域の未来を切り拓いていく力を一人一人の子どもに身に付けさせていく。新穂中学校区コミュニティースクールにおける熟議・取組を通して、地域との連携を強化し、地域の人材ネットワークを拡大していく。

(3) 働きやすく、働きがいのある開かれた職場環境づくり

働き方改革が国家戦略として進められている。本年1月25日には、中教審が、教員の働き方改革の方策をまとめ、文部科学大臣に答申した。働き方改革の理念は、「長時間勤務を良しとする、これまでの働き方を見直し、教師が日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになる」ことである（中教審答申「働き方改革」中間まとめより）。長時間労働をなくすことが働き方改革の目的ではなく、それはひとつの手段にすぎない。また、長時間労働は一個人の問題ではなく、一人一人が学校全体の問題としてとらえることが大切である。「早く退勤する」のは、子どもたちのため、学校改革のため、同僚のため、家族のため、そして自分の「幸せ」のためである。

働き方改革の理念を実現するために、長時間労働を是正することはもとより、職員間のコミュニケーションを活性化して、働きやすい職場環境をつくるのが校長の役割である。日常的な対話や教職員評価面談の中で、一人一人に寄り添った助言や激励を行ったり、各自の取組の良さを認め、賞賛や感謝の言葉を伝えたりして教職員にやりがいと達成感を持たせていく。教職員一人一人が自己研鑽に努め、教育に対する「志」と実践意欲をもって力量を高めていくことができる働きがいのある開かれた職場環境を構築する。

5 学校経営の重点

- (1) 学校の伝統や地域の自然や文化を生かし、地域と連携・協働した教育活動を推進する。
 - ・全校体制によるトキ学習の推進（トキを知る・守る・伝える活動）
 - ・総合学習を中核としたカリキュラム・マネジメント（人的・物的な体制の確保）
 - ・多様な交流活動の機会の充実（修学旅行生、中国洋県姉妹学校、福祉施設等）
- (2) 学ぶ意欲を高め、「学ぶ楽しさ」と「分かる喜び」が実感できる授業づくりを推進する。
 - ・自己変容への気付きを重視した「振り返り」の充実（充実感、達成感、自己有用感、一体感）
 - ・自らの思考を表現するノート指導と、思考を深める学び合いの工夫
 - ・同僚性と協働性を高める職員研修
- (3) 一人一人の社会性を育て、互いのよさを認め合う人間関係づくりを推進する。
 - ・子どもの自主的・自律的な集団活動の充実（学級活動、児童会活動、縦割り班活動）
 - ・自分の思いや考えを積極的に表現できる学級の雰囲気づくり
 - ・「遊び」を通した仲間づくり
- (4) 家庭と連携して基本的な生活習慣と学習習慣の確立を図る。
 - ・メディアコントロールを通じた生活習慣の確立
 - ・生活リズムチェック週間、家庭学習強調週間（中学校区と連携）
 - ・地域のスポーツイベントやスポーツクラブ等に関する積極的な情報提供と啓発
- (5) 実践の「見える化」と情報の「共有化」に努める。
 - ・学校日より、学級日より、ホームページ、リーフレット（活動紹介）等による情報発信
 - ・定期的な情報交換・情報の共有の場の設定
- (6) 子どもの命を守り、いじめ等の諸問題に対応する危機管理体制を充実する。
 - ・初動スピードのあるクライシス・マネジメント（危機管理マニュアルの見直しと徹底）
 - ・問題の未然防止、早期発見のためのリスク・マネジメントの強化
 - ・迅速かつ確実に行う「報告・連絡・相談+報告」と組織的で丁寧な対応（「いじめ防止基本方針」による取組、いじめ見逃しゼロスクール、子どもと共に1・2・3運動）
- (7) 「働き方改革」の理念の実現に向けた業務改善・業務改革を実行する。
 - ・退勤時刻午後7時の徹底、定時出勤・定時退勤の励行（勤務時間の自己管理、適正化）
 - ・前例踏襲をやめる勇気（「1提案1削除運動」の継続）
 - ・時間厳守（他人の時間を取らない！締め切り、会議や授業の終始時刻…等）